

「プレスネット」(vol.882)  
平成 29 年 11 月 9 日掲載



谷本 能文  
(理学・化学)

私は、その昔理科の教員であった。なぜ理科が好きなのかと考えると、小・中・高校生のころ、いろいろな理科の実験をして、その面白さに取りつかれたためであるように思われる。「好きこそ

## 「小学生のためのおもしろ理科実験」を実施して

もの上手なれ」である。

そのような体験から、少しでも理科好きの子どもたちが増えればと思い、数年前から市民講座などで「小学生のためのおもしろ理科実験」の類いの講座を開講してきた。でもよく考えてみ

実施してみた。

黒瀬方面の「いきいきこどもクラブ」などから依頼があり、この夏は計5回実施した。内容は、①「スライムを作ろう」と②「試してみよう！冷たい冷たいマイナス19.6度の世界」の実験。

使った実験。ドライアイス・酸素ガス・液体窒素を使っ

て、火の付いた蚊取り線香やろうそくをこれらの入ったコップの中に入れるとどうなるかなどの実験を見てもらった。次に草花を液体窒素に漬けると花はどうなる

### 東広島市の子どもたちからノーベル賞受賞者を

ると、市民講座に参加できるのは地理的に会場に近い子どもたちに限られ、会場から遠いところに住んでいる子どもたちの参加は難しい。そこで、友人の樋高義昭氏(愛媛大学名誉教授)と二人で、今年「出前講座」を

①は家庭でもできる定番の実験。洗濯のりを薄めた水溶液にホウ砂水を加えると水溶液が次第にゼリー状に固まってくるので、子どもたちはとても興奮して実験していた。②はドライアイスと液体窒素などを

か、膨らませた風船を液体窒素に漬けるとどうなるかを、子どもたち一人一人に実験してもらった。小学校では扱わない初体験のことであり、みんな歓声を上げながら、実験をしたり演示実験を見ていた。

参加人数も多く準備が大変であったが、その子どもたちに理科(自然科学)の面白さを十分に体験してもらえたと思う。国際学術研究都市東広島市の子どもたちの中から30年後・40年後にノーベル賞受賞者が出たら、なんて夢を見ている次第である。

なお、要望があれば、小学生に限らず中学生・高校生・一般市民対象の出前講座も行います。市教育委員会生涯学習課に連絡ください。

広島大学マスタースは、広島大学で退職した教職員を組織しています。市民を対象にした講座も行っています。  
【問い合わせ】  
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)